答辞

長く厳しい寒さも和らぎ、温かい陽の光が差し込む今日、私たちは思い出多きこの学校を巣立っていきます。晴れやかな卒業式を挙行していただき、心より感謝いたします。これからの未来に対して、不安や期待が入り混じる中、こうして無事旅立ちの日を迎えることができました。

今、新座柳瀬高校で過ごした日々を振り返ると本当に色々な日々が思い出されます。高校一年の四月にこの場所で入学式を迎え、お互いのことが全く分からず、最初は友人ができなくて悩むことがありました。しかし、日が経つにつれ、だんだんお互いのことが分かっていき、初めは静かだった教室も次第に賑やかになっていきました。文化祭や体育祭などを経験し、気がつくと入学後すぐに感じていた不安はいつの間にか無くなり、高校で知り合えた友人たちとの日々はとても楽しく、充実した一年間を過ごすことができました。二年次になる頃には、コロナ禍における制限緩和により、黙食が解除されたり、学校行事などもコロナ前の規模に少しずつ戻ったりするなど、本来の学校生活の姿を取り戻しつつありました。また後輩もでき、部活動にも熱が入り、楽しさを重視していた一年次とは変わって、二年次では実力磨きに集中するようになりました。三年次に上がると、大学受験のストレスによる辛さや卒業を控えた寂しさなど様々な感情が心に渦巻きました。こうした学校生活を送る中、時には人間関係で思い悩んだり、部活動で期待した結果が出なかったりして、学校に行きたくないと思う日もありました。しかし、それでも毎日楽しく学校に通うことができたのは、優しい周囲の人たちのおかげでした。そして長く私のことを支え続けてくれた母にも感謝しています。これらの経験から、周囲の人間に支えられながら過ごしていることを実感し、感謝の気持ちを持つことができました。高校生活三年間で、こんなにも貴重な事を経験できて本当に幸せに思います。またこの三年間私達の学校生活を支えてくださった先生方、職員の皆様、今までありがとうございました。私達の知らない所で苦労されたこともたくさんあると思います。ですが私達に親身になって向き合ってくださったおかげでこの日を迎えることができました。春からも支えてくれる人々へ感謝の気持ちを忘れず、自分らしさを大切に、悔いのない人生を歩んでいきます。

最後に、三年間関わってくださった全ての皆様に感謝の気持ちを込めて答辞といたします。

卒業生代表　　石橋　涼